1992 年 4 月 17 日第三種郵便物認可（毎月 3 回 7 の日発行）

2020 年 12 月 18 日発行　SSKR 通巻第 9111 号

SSKR

にじの会だより

Vol.76

社会福祉法人　にじの会
理事長　石崎　優仁
〒181-0015　東京都三鷹市大沢１－６－３
TEL 0422-39-2411
FAX 0422-39-2412
ホームページ：nijinokai.org

あけましておめでとうございます

社会福祉法人にじの会理事長　石崎優仁

２０２１年の新年を皆様いかがお迎えになられたでしょうか。

２０２１年度は法人設立２０周年の年ですが、昨年からの新型コロナウィルス感染の拡大により社会活動の一層の抑制と医療体制崩壊の危機が迫ってきています。遅ればせながらの緊急事態宣言の再発令により飲食店の夜間営業の規制が開始されていますが、海外からの新型コロナウィルスの変異株の侵入も確認されており、感染者の減少は容易ではないと思われます。しかし他方で欧米では新型コロナのワクチン接種が開始されており、日本でも 3 月以降ワクチン接種が開始されると期待されており、コロナ対応の基本に光明が見えつつあると思われます。みんなの努力で 4 月以降、感染収束の方向が見えてくることを期待しております。

この１０年間、障害者が地域の市民として生きる権利を実現していく方向性は進んできていますが、法制度の趣旨と地域生活支援のサービス基盤の乖離が重度障害者を中心に大きくなっており、障害者や介護者の高齢化対応と合わせて、制度の空洞化が危惧されています。特に、生活支援の場の不足を補うことができる地域生活支援拠点の整備が急がれていると思いますが、その遅れが目立ち自治体のより積極的な取組が必要と考えております。

また、環境面では１０年前の東日本大震災を始めとする震災が各地で頻発しております。同時に地球温暖化による異常気象が、集中豪雨や強風等による風水害、高温による干ばつや山火事等の自然災害を極端に激しくしており、多くの被害者が出ています。温暖化防止のために CO2 削減が不可欠ですが、安全と処理方法が確保できない原子力ではなく再生エネルギーの活用と省エネルギー化を推進していくことが求められています。

社会構造では既に人口減少が始まっていますが、少子高齢化はますます進行しており、地方はもとより都市部でも高齢化率が３０％に迫っており、地域での支え合いが必須になっています。地域の住民全体が参加し支え合う共生社会に障害者や施設も積極的に関わっていくことが必要です。

新型コロナウィルス感染を契機に社会の在り方を見つめ直し、地球環境と共生する差別のない社会に切り替えることが求められていると考えています。国連で 2016 年に設定された持続可能な開発目標（SDGs）の実現に、私達にじの会も参加していきたいと思います。

設立２０周年を迎えて、にじの会は、次期中期計画「２０３０年のにじの会のあり方」を SDG s に資する方向で設定し、同時に 20 周年記念事業の実施を予定しております。皆様の一層のご指導とご支援を宜しくお願い申し上げます。

末筆ながら、今年が皆様に幸多き年になるようお祈り申し上げます。

新型コロナウィルス感染対策・今後のにじの会の取組み

社会福祉法人にじの会理事長　石崎優仁

感染予防策とともに PCR 検査等の活用により施設内感染防止を図ります

昨年末から急速に拡大している新型コロナウィルス感染者は１日当たり全国で６千人を超え東京都でも２千人を超えている状況になり、医療崩壊の瀬戸際に来ています。１月７日に遅ればせながら１都 3 県に緊急事態宣言が再発令され飲食業の夜間営業制限が開始されましたが、感染者の減少を実現することは容易ではないと思われます。

しかし、他方で新型コロナのワクチン接種が開始されており、日本でも 3 月以降に医療従事者や高齢者等への接種開始が期待され、4 月には障害者施設でも開始できる可能性も出ております。実際にワクチン接種ができるまで、感染予防策を一層強化し施設内感染を防止していきたいと考えております。

にじの会では発症前や無症状の人でも感染力がある新型コロナウィルス感染の特徴から、施設内感染を防止するには利用者・職員の一斉 PCR 検査を定期的に実施し、各人の陰性の確認と感染予防策の有効性の確認を行うとともに、無症状の陽性者の早期発見が不可欠であると考え、昨年から一斉 PCR 検査を積極的に進めております。

昨年 11 月下旬に第 1 回一斉 PCR 検査を実施し、入所・ホーム利用者全員 82 名と受検希望通所利用者 17 名で計 99 名の利用者と職員 155 名　合計 254 名が受検し全員の陰性を確認しました。

年末年始の感染急拡大の中で、第 2 回一斉 PCR 検査を 1 月 5 日・6 日に実施いたしました。第 2 回では一斉検査の効果を上げるため入所・ホーム利用者全員 82 名と通所利用者全員 79 名で 161 名の利用者全員とにじの会職員 155 名と厨房の委託業者職員 10 名を含めて 165 名の職員全員が受検し合計 326 名全員の陰性が確認されました。

この一斉 PCR 検査を実施する費用は入所施設については東京都が 2 回分を補助し、調布市のホームにつき調布市が 1 回分補助していますが、他のホーム利用者や通所者は自己負担となり受検率が低い原因となっているため、第 2 回は補助のない全利用者分費用を職員分と合わせて、にじの会が負担して全員が受検することができました。次に 3 月に第 3 回を実施予定ですが、東京都の追加補助や自治体の補助が実現することを期待しております。

また、12 月中旬に職員の陽性者発生がありましたが、新型コロナウィルス感染の BCP 計画に沿って対応し本人の早期受診・隔離と行動履歴に沿った接触者の即時 PCR 検査実施と行動場所の消毒実施により施設内感染は防止できました。このように職員が発熱等の体調異常を発した場合や家族等での濃厚接触者が生じた場合必ず通院し、可能性があれば PCR 検査等を受けるように指示しており、この場合の検査費用は法人が負担することとし、積極的に受検する体制をとっています。

利用者が体調異常を発した場合、必ず受診し感染可能性があれば入所者については配置医により施設内で抗原検査等を受けることができる体制をとっており、ホーム利用者・通所者の場合は連携医療機関での抗原検査・PCR 検査の受検を薦めています。

以上のように手指消毒・マスク着用・換気励行・接触点消毒・3 密防止等の接触感染・飛沫感染防止の新型コロナウィルス感染予防策の徹底とともに、PCR 検査等の活用により陽性者の早期発見と感染予防策の有効性の確認チェックを行い、ワクチン利用まで施設内感染を防止していきたいと考えております。

1992 年 4 月 17 日第三種郵便物認可（毎月 3 回 7 の日発行）

2020 年 12 月 18 日発行　SSKR 通巻第 9111 号

2020 年度 第 10 回 屋外スポーツ大会報告

例年開催場所のスバル総合スポーツセンターでの大会は、新型コロナウィルス感染予防対策の為、利用人数の制限が設けられ、中止を余儀なくされることになりました。途切れることなく継続してきたスポーツ大会を他の場所で開催できないかと検討した結果、同年 4 月に開催中止となりましたウォーキング大会を代替行事として 11 月 19 日(木)に開催致しました。都立公園からは大人数での来園自粛要請がありましたので、野川公園、神代植物公園、自由広場(神代植物公園/無料開放区域)、武蔵野の森公園の 4 か所に分散化を図りました。葉が色づく秋の時分、紅葉を観賞しながらのウォーキングやお弁当はとても有意義な一日になりました。

※にじの会周辺には大きな公園がいくつかあります。以下、大会を実施した公園を紹介します。

（支援専門 運動：桒本 武）

****

＜野川公園＞
もとは国際基督教大学所有のゴルフ場で、かなりの面積で芝生が広がる都立公園。日頃の運動活動や余暇外出等で利用している公園です。
きずな工房、せいびグループ、園芸グループ、わっしー工房とわくわく工房と工房創楽の男性利用者が散策や写生会などで過ごしました。

****

＜神代植物公園＞
都内唯一として開園した植物公園。
未来工房、工房つむぎ、遊悠工房、アートの女性利用者が園内の散策やフォークダンスなどをして楽しみました。

****

＜自由広場(神代植物公園/無料開放区域)＞
神代植物公園北側の小さな住宅街にあるすこし大きめで、植物や鳥たちの四季を感じられる地元に密着した憩いの公園。日頃からこの広場でウォーキングをしている工房えがおと工房たいようが散策を楽しみました。

****

＜武蔵野の森公園＞
調布飛行場が一望でき、近くには東京スタジアムがあり、調布基地跡地利用計画としてできた公園。仲喜工房と工房すばるが広い青空の下ウォーキングをしました。
毎年 3 月には園内のプロムナード(直線 1km)にて、にじの会利用者によるロードレースを開催しています。

****

1992 年 4 月 17 日第三種郵便物認可（毎月 3 回 7 の日発行）

2020 年 12 月 18 日発行　SSKR 通巻第 9111 号

クリスマス会報告

＜大沢にじの里＞

2020 年度の「にじの里クリスマス会」はコロナウィルスによる感染症予防を万全に行い、事前に用意した利用者さんやスタッフの歌や踊りを画像で流しての開催でした。初めての試みでしたので戸惑うことばかりでしたが、当日は利用者さんやスタッフの活き活きとしたパフォーマンスを映像で楽しみ、利用者さんがとても興味深く楽しそうに視聴して下さり、新たな取り組みとしてＩＣＴを用いた貴重な体験となりました。

にじの里　垣野

＜にじアート＞

2020 年最後の行事クリスマス会、コロナ禍によりボランティアによる演奏はありませんでしたが、各工房利用者の合奏、スタッフによるクリスマスソングを事前収録しみんなで昼食時間や、活動時間に見ました。豪華なクリスマスメニューや、スタッフが扮するサンタクロースが工房ごとにプレゼントを届けるイベントは実施できました。いつもとは少し違うクリスマス会でしたが、みんな楽しそうに笑顔で一日過ごしました。

にじアート　坂野

ハーモニー「おつかれさま会」（クリスマス会）報告

2020 年 12 月 21 日（月）にワークショップハーモニーでは、利用者会主催のおつかれさま会「クリスマス会」を事前のアンケートで映画鑑賞かパンケーキ作りのグループを選択し、感染症防止対策をとりながら分散形式で開催しました。今回はどちらもみなさん一人ずつ一年間の振り返りと来年の抱負などをメッセージカードに書いたり発表してから開始しました。やはり話題はコロナ感染症に関するものが多く、「早くコロナがおさまって、好きなところに行けますように」というような思いの発表が多く聞かれました。

映画鑑賞グループは休業日のショップ店舗を映画館と化し、リクエストの多かった映画を隣同士の席の間隔を取りながら鑑賞し、皆さんこの時期なかなか行けなくなった映画館の雰囲気を楽しまれました。パンケーキ作りグループは、買い出しした材料を皆さん自発的に役割を決めていってスムーズに調理され、仕上げは思い思いのトッピングで少人数の仲間と一緒にする調理を楽しまれた様子でした。

毎年恒例のみんな集まって歌やダンスで盛り上がるかたちのお疲れさま会ではありませんでしたが、どうすれば楽しめるか、必要な感染防止対策は何かをみんなで考えながら計画・実施することが出来ました。

（ワークショップハーモニー　清水）

2021 年にじの会成人式

2021 年にじの会成人式が 1 月 8 日（金）に行われ、鵜澤光太郎さん（にじの里園芸グループ）、小石友貴さん（就労移行）、松田将生さん（就労移行）の３名が大人の仲間入りをしました。スーツ姿の新成人の皆様・ご家族の皆様にはにじの会役職員と共に、和やかでありながらも、厳かな雰囲気の中で成人式を行いました。お祝いの言葉と共に記念品が贈られ、新成人の皆様に届いた祝電を披露させていただきました。

今年は、新型コロナ感染症対策として役職員の出席人数を減らしました。また、利用者全員でお祝いする「新成人を祝う会」が中止となり、利用者・職員からのお祝いの言葉として「ビデオレター」を作成し、成人式の中で披露しました。初めての試みでしたが、新成人を迎えられた方々皆さん、大変喜ばれていました。新成人の方々の大きな節目となる大人へのスタートとなりました。これからのご活躍を期待しております。　（定期行事担当　佐藤智観）

1992 年 4 月 17 日第三種郵便物認可（毎月 3 回 7 の日発行）

2020 年 12 月 18 日発行　SSKR 通巻第 9111 号

人事制度プロジェクト　各種職員懇談会報告

人事制度プロジェクトが発足して３年目となりました。長く働き続けるための「様々な働き方の職員懇談会」と職員自身の主体的なキャリアップを通じた同期意識の醸成等を目的とした「等級別職員懇談会」等の様々な職員懇談会が定着されきており、今年度は感染症対策を講じた上で実施しました。

＜産休・育休　職員懇談会＞

昨年の意見を取り入れ、男性職員に向けて懇談内容を充実した事もあり、未経験・経験者や当日出席できないスタッフも含めたくさんのアンケート提出がありました。今回は日中・生活職員と小グループに分けそれぞれの職種に沿った悩みや経験談やアドバイスを通じて、「産休前～復職後までのガイドライン（冊子）」「相談窓口やzoom等を使用し繋がりを持ち安心した復職を目指す」等が挙がり、和気あいあいとした懇談となりました。今後も孤立化を避け、常に情報共有と相互理解を図り、安心して働ける職場づくりに努めていきます。

＜介護休業　職員懇談会＞

「介護休業」では、「大変だ」「抱え込みがち」というイメージ先行があるようです。今年度はそのような声に対応出来るよう、介護休業を始めとした、各種様々な働き方に関する相談窓口を設けました。挙がった意見として、「各種相談窓口の積極的活用」「資源や制度の活用事例の共有化」など抱え込ませない方策への意見が数多く寄せられました。前半部分で実施した制度等の勉強会を含め、今後も体験談や資源活用事例などを積極的に情報交換できる機会を設けていきながら、常に前向きに仕事と家庭のバランスが図れるよう取り組んでいきたいと考えています。

＜新シニア等級　職員懇談会＞

10 月に新シニア職員交流会をハーモニーガーデンにて行ないました。堅苦しくなり過ぎない様、またシニア層ということも踏まえた上で、『ビジネスにおけるリーダーとにじの会におけるリーダー』というテーマに沿って実施しました。前半は福祉という観点ではなく、一般社会としての「リーダー」そのものの講義とテーマに沿ったグループワークを実施し、控え目ながらも楽しそうに参加していたのが印象的でした。後半では、にじの会のシニア等級として具体的にどういった形で支援・業務を行っていくかを話し合うグループワークでは「職場環境」を気にする方が多く、チームワークを大切にしていることが窺えました。終了後には食事会を通じ、友好関係を深めました。アンケートでは、「また同じメンバーでやりたい」「こういった機会は嬉しい」等の意見も上がり、充実した内容であったことが分かりました。今後もこういった機会を継続させていくことと、また新シニアの皆さんの活躍にも注目していきたいと思います。

今後も、人事制度プロジェクトでは、各働き方や職務等に悩む職員それぞれが孤立化しないよう、常に情報を共有しながら、新たな制度や設備等の提案に積極的且つ主体的に取り組める職場風土をさらに目指していきます。

（人事制度プロジェクト 新津健朗）

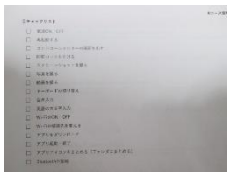
1992 年 4 月 17 日第三種郵便物認可（毎月 3 回 7 の日発行）

2020 年 12 月 18 日発行　SSKR 通巻第 9111 号

12 月 26 日全体研修報告

コロナ禍の中、感染防止の観点から事業所ごとに密を避けての全体研修を実施しました。

大沢にじの里



午前中の ICT 研修では事前にチェックシートを記入し、スタッフ 3 名に講師 1 名という贅沢な体制で研修受講者のニーズに合った研修を受講できました。受講者からは分からないことがすぐに聞けるのでやり易かった、講師を担当したスタッフからもこれで終わりではなく半年に 1 度くらいのペースで行い各スタッフがよりＩＣＴに精通し支援力を向上できるように取り組めると良いのではという意見が出ました。

午後は事前に撮影した動画で第三者評価の報告を受けました。業務部門運転の木村主任作成の渾身の動画と資料により、自転車安全利用研修を約 1 時間 30 分確りと受け、交通ルールの順守と安全運転の気持ちを新たにしました。その後は ZOOM と事前に撮影した動画を活用し、2020 年表彰と新入職者の紹介を行い、比較的リラックスした雰囲気でお互いの頑張りを称え合いました。新入職者には温かな拍手で歓迎の気持ちを伝えました。

最後の講評・まとめでは激動の 2020 年を振り返るとともに、新年に向けて気持ちを一つにまとめることが出来ました。

研修委員会　佐藤智観

にじアート

午前中は ICT 技術の向上として、スタッフそれぞれのスキルに合わせて「基礎編」「アドバンス編」と分かれて実施しました。「基礎編」では日頃、確認できないタブレットの基本的な操作を一から学び直し、苦手意識を持っていたスタッフも一歩を踏み出せたようでした。「アドバンス編」では「Go Talk Now」や「Pic Collage」「やること」などそれぞれの支援場面や目的に合わせて複数のアプリなどを活用する方法などを学べ、大きな収穫のある研修となりました。

午後は第三者評価の録画での講評を聞き、自部署の強みと今後の課題点を確認する事が出来ました。自転車講習では日頃から自転車で通勤しているスタッフ以外も、改めて正しい交通ルールを再確認する良い機会となりました。勤続表彰では 27 名が表彰され、法人が進める「働きやすく、働き続けられる職場作り」が具現化されている事を確認出来ました。

にじアート　時田秀明

ワークショップハーモニー

午前中の ICT 研修は初めに Ipad の基本的な概略を学び、次に大きく 2 つのグループに分かれて、実際に Ipad に触れながらそれぞれのニーズに応じた内容を受講することが出来ました。ハーモニーでは導入されて 2 カ月ほどということもあり、まだ触れたこともないスタッフもおり、とても有意義な研修でした。初心者のグループでは起動の仕方から写真の撮り方、簡単なアプリケーションの使用方法、ある程度触れたことのあるグループでは動画編集の仕方を学びました。今後の支援に活かすヒントを多くもらった時間になりました。

午後は自転車研修を確り受講し、自転車通勤者の利用者にも教えていく必要を感じました。その後の表彰、新入職者紹介、講評・まとめも慣れ親しんだ職場で受講することで良い意味で力を抜いて集中して受講出来ました。

研修委員会　小木曽淳

1992 年 4 月 17 日第三種郵便物認可（毎月 3 回 7 の日発行）

2020 年 12 月 18 日発行　SSKR 通巻第 9111 号

2020 年度職員表彰の報告

2020 年度の職員表彰は、全体研修同様にコロナ感染対策としてチーム表彰、個人表彰ともに個別に行われました。表彰されたチーム及び個人は以下のとおりです。

１．研究功労賞

研修委員会（佐藤智観、小木曽淳、山本悠、佐久間稔、保坂啓、名取哲也、栗原あやな）

表彰事由　オンライン・ＺＯＯＭ方式での所内研修・全体研修を実施し、有効な研修成果を収め、今後の研修方法の発展につながった。

２．運営功労賞

①ハーモニー豆富工房（加藤慎二、松本修次）

表彰事由：6 月の学校再開後給食向け売上を前年比 30%増加しハーモニーの収入確保に多大な貢献をした。

②大沢にじの里日中「仲・喜工房」（花井瑞明、西垣内義彦、櫻井詩音、小川拓郎）

表彰事由：大・小のグループを活用し各利用者に合った活動を提供している。

③未来工房にじ（佐藤智観、村上道代、杉原利重、木村優美、宮島麻弥、平田恵）

表彰事由：利用者主体で生産できる製品づくりを進め有効な製品を提供しつつある。

④業務部門設備担当（金子修、前田健一）

表彰事由：各事業所の維持修繕を迅速に実施し、ネットワーク改善・大沢にじの里の美化等を進めている。

３．勤続表彰

優秀勤続 15 年賞　杉原利重

優秀勤続 10 年賞　白坂伸・三代川朋美・服部敏行・千葉鉄也・西垣内義彦・田村理美
金子修

優秀勤続 5 年賞　八十岡芳一・綱本誠・高久江里・羽石敏・小林理人・飯田まゆ美
奈良亮・山本悠・塚本舞子・山本奈緒美・吉野理・日暮優菜
藤田淳・鈴木由季代・名取哲也・對馬純世・大倉生・吉永はるな
首藤円美・小日向定子

４．部門別研究表彰

優秀賞　①工房たいよう　「機能低下防止プログラム」
②園芸　「コミュニケーション・作業でのＩＣＴの活用」
③ホームにじの空　「わたしの時間」
④業務部門運転　「運転のヒヤリハット事例」

『にじの会だより 76 号』　定価　50 円

発行所：特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

〒157-007　東京都世田谷区祖師谷 3-1-17　ヴェルドゥーラ祖師谷 102 号

TEL:03-6277-9611　FAX:03-6277-9555

編集人：社会福祉法人にじの会

〒181-0015　東京都三鷹市大沢 1-6-3　TEL：0422-39-2411　FAX：0422-39-2412